

(別添4)

【 南国市 】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めようとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

小・中学校における1人1台タブレット端末の日常的かつ効果的な活用を促進するために、学習等における先端技術（協働学習支援ツール、プログラミング学習教材、デジタル教科書、デジタルドリル、生成AI等）の活用を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることにより、教育の質を向上させ児童生徒の可能性を最大限に引き出していく。

また、個に応じた学習支援を実現することで、児童生徒の学習に関する不安や悩みの解消を図るとともに、授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化の促進、「主体的に学習に取り組む態度」や「思考力・判断力・表現力」の育成につなげていく。

2. GIGA第1期の総括

本市では、令和2年度末に全ての小中学校に3,507台の端末を整備し、各学校内で大容量通信ネットワークや周辺機器を含めたICT環境の整備が完了した。その後もアクセスポイントや1人1台端末を追加整備するなどの改善を進め、安定したインターネット接続が可能となり、ICTを活用した学習活動が円滑に進むようになった。

また、本市では授業支援ソフト（ロイロノート）を導入することで、児童生徒の主体的・対話的な深い学びのある環境整備をして取組を推進しており、学びのツールとしてデジタルドリル（ミライシード）も導入し、家庭学習の充実も含め個別最適な学びの実現を目指している。

中学校では、プログラミング教材（ライフイズテックレッスン）も導入することで、プログラミングの基礎から応用まで、幅広い内容を学ぶことで高等学校に向け一人一人の可能性を最大限に伸ばすことができるように努めている。

しかし、学校間で活用率に差が出ている現状があり、教職員や児童生徒の更なるICT活用推進を図るため、ICT支援員の配置やICT委託業者との連携を図っている。今後、県だけでなく本市でもICT活用のための研修も積極的に実施していきたい。

3. 1人1台端末の利活用方策

本市では、GIGAスクール構想により1人1台端末等の整備、活用を開始して5年目を迎える令和7年度には端末の更新を予定している。学校の授業や家庭学習での端末の日常的な活用が進んできている現状も踏まえ、以下のように1人1台端末の利活用を推進していく。

(1) 1人1台端末の積極的活用について

1人1台端末を活用し、学習履歴や生徒指導上のデータを利活用し、児童生徒個々に応じた指導や支援の充実を図っていく。

そのために、各校の実態に合わせた研修会を実施し、端末を日常的に活用できるよう教職員のICT活用指導力の向上を図る。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実について

本市がこれまで取り組んできた学習等における先端技術（協働学習支援ツール、プログラミング学習教材、デジタルドリル、デジタル教科書等）を効果的に活用することで、教職員の負担軽減を図りながら、授業力の向上、児童生徒の基礎学力の定着・向上を図る。

(3) 学びの保障について

全ての児童生徒の学びを保証するために、特別な支援が必要な児童生徒に対して一人一人きめ細やかな支援が実施できるよう、ICTの利活用を模索し多様なニーズに対応していける環境整備をさらに推進していく。